



第40号
2003(平成15)年11月1日
LET九州・沖縄支部事務局発行
〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92
西南学院大学語学ラボラトリー内
TEL & FAX (092) 823-3695
E-mail: ll@seinan-gu.ac.jp
編集: 石川富紀子・中野秀子・武井俊詳

第43回外国語教育メディア学会 (LET) 全国研究大会報告

福岡大学 石井和仁

外国語教育メディア学会(LET)第43回(2003年度)全国研究大会は、「外国語教育とメディア・認知・コミュニケーション:明日への戦略を考える」という大会テーマのもと、関西外国語大学中宮キャンパス(大阪府枚方市中宮)で、7月31日(木)から8月2日(土)まで3日間にわたり開催された。初日は、例年通りワークショップおよび各種委員会・役員会が行われ、翌日から2日間、実質的研究討議が行われた。



基調講演

会場となった関西外国語大学中宮キャンパスは、平成13年12月25日に竣工祝賀会を行い、旧片鉾キャンパスから移転してまだ2年に満たない非常に新しいキャンパスで、その印象を一言で述べるならば、モダンと伝統が美しく調和した欧米の大学的たたずまいを備えた素晴らしいキャンパスである。さらに、LETとの関連で特記すべきことは、図書館学術情報センターには、いくつかの大学やLET会員から寄贈された音声やLL関連の機器が展示された「LL歴史資料室」が開設されていることである。筆者もここを訪れてみたが、64ブース対応のCALL教室ほどの広さの部屋に、古いものから比較的新しいものまで様々な機器が所狭しと並んでおり、英語教育における教授法とテクノロジーの関係が、時代の変遷とともに大きく変化してきた様子が視覚を通して直接実感される。

大会プログラムを概観してみると、まず、講演が2日間で2件組まれており、シンポジウムは2日間で3種類、計10件組まれている。3種類の内訳は、「支部担当フォーラム」という名称が与えられた実質、「支部担当シンポジウム」が4件、翌日、「企画シンポジウム」が5件、

そして大会の締めくくりとして「全体シンポジウム」が1件組まれている。研究発表・実践報告は2日間で計78件、ポスターセッションは14件である。この件数は、前回の第42回全国研究大会(大妻女子大学)と比べると、かなりのボリュームアップとなっている。プログラムが充実することは、大会成功の一つの鍵となるが、しかし一方で、プログラムの選択肢の拡大は、時折、個々の発表に参加するフロアーの規模の縮小にも繋がるため、この点は、次回第44回全国研究大会を主催する九州・沖縄支部としてもよく検討しておく必要がある。

ここで、九州・沖縄支部が担当した「支部担当フォーラム」(実質的シンポジウム)と全体シンポジウムに触れておきたい。支部担当フォーラムでは、九州・沖縄支部に「コミュニケーション」というキーワードが与えられ、運営委員会での議論の結果、「コミュニケーションな英語指導にむけた英語教材はどうあるべきか—中・高・大の視点から—」というテーマが決定し、次の4人のパネリストが選出された: 中学校検定教科書執筆者の立場から西南学院大学の武井俊詳先生、高等学校検定教科書執筆者の立場から福岡教育大学の高梨芳郎先生、大学共通英語テキスト執筆者の立場から大分県立芸術文化短期大学の染矢正一先生、マルチメディア教材制作者の立場から北九州市立大学の奥田裕司先生。議論はそれぞれのコミュニケーションな視点、言語材料の選定や構成、今後の課題などを巡って展開された。全体シンポジウムは、「Super English Language High Schoolなどの取り組みから明日への戦略を考える」と題し、関西地区で成功しているSELHiの先生方がパネリストとなり、学校内の人間関係や信頼関係の構築が重要な成功のカギとなること等を力説された。



九州・沖縄支部フォーラム

第35回 LET 九州・沖縄支部研究大会を終えて

大会実行委員長 中 野 秀 子 (九州共立大学)

平成15年6月14日(土)、梅雨の合間の曇り空の中、九州共立大学工学部で第35回 LET 九州・沖縄支部研究大会が開催された。東條加寿子先生(九州女子大学)、奥田裕司先生(北九州市立大学)と私の3人で第1回支部大会実行委員会を開催したのが、平成14年10月。それからあっという間に学会当日がやって来た感があった。



口 頭 発 表

本支部大会は発表件数16件(内キャンセル1件)、参加者総数127名、懇親会参加者57名、展示企業17社であった。特筆すべきは当日、新入会員が2名、当日会員が32名あったことであろう。

発表は午前中3室、午後から4室で行われ、15件中11件の発表者がPCを使用され、内御一人はnetworkに

接続された。発表の内容はCALL関連(7件)、コミュニケーション能力、リスニング関連(3件)、ESP関連(3件)、携帯メール利用関連(1件)、教授法関連(1件)であった。いずれの発表も熱心な質疑応答がなされた。昼休みにはCAI教室の見学ツアーが開催された。又、大会中常設された「Drink コーナー」は参加者の憩いの場として好評であった。午後2時50分から開催されたシンポジウムのタイトルは「e-Learningの現状と今後の展望：『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」を受けて、田口純先生(筑紫女学園大学)がコーディネーターを務められ、小野博先生(メディア教育開発センター)、細谷行輝先生(大阪大学)、堀井祐介先生(同左)、岸田徹氏((株)ネットラーニング)がパネリストとして発表された。詳しくは、シンポジウム後記を参照されたい。3時過ぎても当日会員が数人シンポジウムに参加された事は嬉しい限りであった。

熱心な討論後の懇親会は松柏園グランドホテルで行われ、木下正義支部長、パネラーの先生方、先輩の方々からの暖かいお言葉を戴き、玄海の幸を堪能し、来年福岡で開催される2004年度 LET 全国大会の成功を祈念して本研究大会を終了した。

終わりに、本大会のプログラムを福岡・北九州市の教育委員会を通じて小・中学校合計415校に配布することができたが、このような膨大な大会準備や当日の運営に御尽力と御協力を頂いた皆様に心より御礼申し上げます。

第35回 LET 九州・沖縄支部研究大会報告ーシンポジウムを中心に

筑紫女学園大学 田 口 純

いただきました。

本年度の支部研究大会のシンポジウムはテーマを「e-Learningの現状と今後の展望：『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」を受けて、平成13年に出された「e-Japan戦略」や平成14年に出された「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」など国の施策としての取り組みに対して、産学官それぞれの立場からe-Learningの現状と今後の展望をご説明いただき、また、産学官の連携は今後どうあるべきかなどについて、フロアからの意見や質問なども交えながら進めるシンポジウムとなりました。

第1部はこれまでの取り組みと現状報告として、官の立場から小野博先生(文部科学省大学共同利用機関メディア教育開発センター)には、文部科学省の英語教育への取り組みについてご説明いただき、現場の認識、SELHi構想のあり方、教員研修、入試などの問題点を指摘して



シ ン ポ ジ ウ ム

細谷行輝先生(大阪大学)と堀井祐介先生(大阪大学)には、学の立場から大阪大学大学院工学研究科の英語授業での取り組みについてご紹介いただきました。実際に

行われている日々の授業での問題点やその解決、教員の負担などについても言及いただきました。

産の立場からは（株）ネットラーニングの岸田徹代表取締役にお話しいただきました。アメリカの3年遅れで進んでいる日本の現状、企業内教育から高等教育へのシフトなど、ネットラーニングの具体例も交えながらわかりやすくご説明いただきました。

その後フロアとの意見交換を経て、第2部として今後の展望について各パネリストの先生方にご発表していただきました。岸田氏からは産学の連携としての教材製作やアウトソーシング、内定者研修などについて、細谷先生からは教師の負担をいかに軽減していくか、その具体例として現在開発中のシステムについてのご紹介、小野

先生からはバーチャルユニバーシティや教育の規制緩和の問題、メディア教育開発センターの取り組みなどについてお話しいただきました。それらを経て再びフロアとの意見交換を行いました。

今回のシンポジウムは支部外のパネリスト、大学院や産業界での事例など、普段とは異なった視点から支部大会のシンポジウムを企画致しました。産学官それぞれの立場から具体例を多く入れながらのお話は参考となるものが多かったのではないかと思います。少子化や独立行政法人の問題がある一方、英語教育への期待もますます高まっております。e-Learningを導入してさらなる大学等での英語教育の推進の一助になることを願っております。

2002(平成14)年度外国語教育メディア学会九州・沖縄支部決算報告書 2003(平成15)年度外国語教育メディア学会九州・沖縄支部予算書

〈収入の部〉

2003年6月14日

費 目	2002年度予算	2002年度決算	2003年度予算	備 考
前年度繰越金	624,286	624,286	913,044	
会 費 収 入	1,020,000	992,000	1,062,000	会員@6,000×140件@5,000×25件 学生会員@3,000×6件 その他@8,000×1件@1,000×1件
大会当日参加費	13,000	20,000	20,000	
講 習 会 費	62,000	0	0	
展 示 ・ 広 告	600,000	720,000	700,000	紀要、支部だより、研究大会
紀 要 投 稿 料	72,000	15,000	50,000	
支部研究大会補助金	0	249,000	0	九州共立大学、北九州コンベンションビューローから
雑 収 入	300	6,040	5,000	利息、紀要代金
計	2,391,586	2,626,326	2,750,044	

〈支出の部〉

費 目	2002年度予算	2002年度決算	2003年度予算	備 考
人 件 費	60,000	30,000	30,000	研究大会学生アルバイト代等
研究大会関係	30,000	30,000	30,000	研究大会準備費
講 習 会 費	50,000	0	0	講師謝礼
通 信 費	400,000	288,355	500,000	郵送料、事務局電話等
会 議 費	150,000	101,950	300,000	支部長連絡会、運営委員会等
印 刷 費	850,000	427,350	800,000	支部だより、紀要等
事 務 費	50,000	46,491	100,000	FAX 用紙、宛名ラベル等
旅 費 交 通 費	50,000	0	150,000	研究大会実行委員旅費交通費
積 立 金	100,000	300,000	300,000	全国研究大会等
事務局謝礼	48,000	48,000	48,000	
支部負担金	92,625	117,450	148,800	本部会計へ振込
研究プロジェクト補助金	130,000	130,000	0	
学 術 講 演 会	160,000	93,939	160,000	JACET との共催
雑 費	80,000	99,747	100,000	送金手数料等
予 備 費	140,961	0	83,244	
計	2,391,586	1,713,282	2,750,044	

事務局からの報告・連絡

【新会員】2003年5月1日以降（50音順）

上運天 美都子	西南学院大学
川 瀬 義 清	長崎ウェスレヤン大学
早 田 武四郎	宮崎公立大学
武 下 絵 美	筑紫女学園大学
松 崎 徹	西南学院大学
三 宅 敦 子	長崎短期大学
興古光 宏	

【支部「紀要」第4号投稿者募集】

2003年度 LET 九州・沖縄支部研究大会および全国研究大会において、研究発表・実践報告・ポスターセッション・支部フォーラムパネリストを担当された会員および支部研究プロジェクトメンバーに対して、支部「紀要」第4号への投稿者を募集します。詳細は、支部事務局へお尋ねください。

【2004年度 LET 全国研究大会】

期 日：2004年7月28日（水）～30日（金）

会 場：西南学院大学／中学・高等学校

福岡国際会議場（メイン会場として）

大会テーマ：「いま LET がめざす変革期の外国語教育」

初日の28日には、西南学院大学を会場に、毎年恒例の諸会議ならびに午前と午後最大9種類のワークショップを開催し、夕方からは新春新築されたばかりの中学・高等学校を会場に、一般市民参加型の市民フォーラムを開催します。テーマは「英語が話せる子供たちの育成をめざして－親の視点・教師の視点－」を予定しています。29日～30日は、開会行事、基調講演、特別講演、全体シンポジウム、支部テーマ別シンポジウム、研究発表・実践報告、ポスターセッション、展示、懇親会、総会、閉

会行事と盛りだくさんです。

皆様方のご参加とご協力を切にお願いいたします。

【2004年度 LET 九州・沖縄支部研究大会】

2004年度は、全国研究大会が九州・沖縄支部担当で開催されるため支部研究大会は開催されません。

【会費納入のお願い】

2003年度までの会費をまだ納入されていない会員の方は、できるだけ早めに振り込んで頂きますようお願いいたします。支部の円滑な運営にご協力ください。

なお、住所・所属等に変更が生じた場合は、振込用紙の通信欄にその旨ご記入ください。

【LET ホームページ】

＜LET 本部＞

<http://www.j-let.org/>

＜LET 九州・沖縄支部＞

<http://www.j-let.org/kyushu-okinawa/>

【オンライン・フォーラム参加のお願い】

当学会 CALL 部会が開設しました web ページにおきまして、オンライン・フォーラムを立ち上げております。九州・沖縄支部は「小学校英語教育とマルチメディア」というテーマでフォーラムを主催しておりますので、(<http://www.yuchan.com/~call/>)の「電子会議室」にアクセスして、登録・投稿を行ってください。このオンライン・フォーラムでの議論は来年度九州で開催される LET 全国研究大会において予定されております同テーマの市民フォーラムへと繋がって参りますので、皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

なお、このページは、LET の ML や BBS を利用した研究グループの総合案内です。

3D-IES(ASP版)

3D Interactive Education System (ASP edition)

3D仮想空間が変える“学び”のスタイル

3D-IESはインターネットを利用した3次元仮想空間でのインタラクティブな教育環境を実現する双方向ネットワークシステムです。

「時間」、「場所」という制約をなくし、臨場感あふれるコミュニケーションの場、協調学習の場を提供します。しかも、ASPだから「必要なとき」だけ、ご利用いただけます。

※遠隔地（国内外）との場を共有した、リアルタイムコミュニケーションによる語学学習などに最適です。



[3Dチャット]

ITソリューション 株式会社 東和エンジニアリング

<http://www.towaeng.co.jp/>

九州営業所 〒812-0006 福岡市博多区上牟田1-16-26(第2山本ビル) TEL (092) 473-2101 FAX (092) 473-2129

ITソリューション本部 〒101-0023 東京都千代田区神田松永町13 TEL (03) 3251-6732 FAX (03) 3251-3853

支社/関西 支店/関東 営業所/北海道・筑波・千葉ソリューションセンター・西東京・横浜・名古屋